

ヒュリエット紙（トルコ）による安倍総理書面インタビュー
（10月28日付, 8面）

「日本の安倍首相がヒュリエットに語った『新たな友好のシンボルとなる』」

10月29日に行われるマルマライ開通式に参加するために、今夕トルコを訪問する日本の安倍首相はヒュリエット紙のインタビューに回答した。日本とトルコの間の戦略的パートナーシップ構築をいっそう加速させるべきとする安倍首相は、「日本は今後も官民が一体となってオールジャパンで日本企業の海外進出を支援していくことにより、両国が共に成長するウィン・ウインの関係を構築していく考えだ」と述べた。就任して以来、複数回訪問した国は唯一トルコだけだと言う安倍首相は、その理由として、トルコが日本にとってウィン・ウインの関係を築ける重要なパートナーと考えているからであると説明した。また、マルマライに関しては次のように述べた。「イスタンブールは、アジアとヨーロッパにまたがる歴史と伝統をもつ美しい都市だ。私の地元下関市と姉妹都市でもある。ボスポラス海峡を、海底トンネルで横断する『マルマライ計画』は、トルコにとって、オスマントルコ帝国時代からの夢であり悲願であったと伺っている。本計画は、アジアとヨーロッパを結ぶという点でグローバルな観点からも重要だ。日本は1999年以来、本計画の実現のため、これまでに1,450百万ドル以上の有償資金協力を行ってきた。今回のトンネル建設では、あらかじめつくったトンネルを海底に寝かせ連結する「沈埋（ちんまい）工法」を用いている。本計画で実現した、水深約60mにまで及ぶ海底へのトンネル敷設は、同工法では世界に前例がないものだ。これは、日本の高い技術力と、現場に携わる経験豊富な多くのトルコの方々のかたが協働して、築き上げた成果である。日トルコ両国の協力により実現したこのような歴史的な事業の開通式典に、出席できたことを誇りに思うとともに、非常に嬉しく思う。日本とトルコの外交関係は来年90周年を迎える。本プロジェクトが両国の友好関係の新たな象徴となることを願っている。」。さらに、日本企業はトルコを象徴する巨大インフラ案件に積極的に参画しているという安倍首相は、この状況は今後も続くであろうと述べた。（了）